

2009 年度日本液晶学会 第 5 回理事会

日時：2009 年 11 月 7 日（土）13：30～17：00

場所：日本液晶学会事務局

出席：檜山爲次郎、池田富樹、水嶋繁光、折原 宏、栗原清二、斎藤伸一、花崎知則、齋藤一弥、高西陽一、田所利康、西山伊佐、豊岡武裕、山口留美子、長谷川雅樹
オブザーバー 福田幹夫、諸星宗一 (株)アドスリー

審議事項

総務委員会

1. 2009 年度第 3、4 回理事会および総会議事録の確認（承認）
2. 理事会議事録について
 - (1) (株)アドスリー作成の議事録は総務理事が確認し、次回の理事会開催前にあらかじめ理事にメールで配布し修正点があれば総務理事へ連絡をするようにする。正式な承認は次回の理事会で行う。ホームページ掲載用議事録もこのときに、各委員会で作成することを提案。（承認）
 - (2) 総会議事録については、翌年の総会の承認無しで、理事確認後にホームページへ掲載することを提案。（承認）
3. 理事会等の交通費、宿泊費に関して
原則、交通費は支給するが、宿泊費は支給しない。ただし、理事会の開催時間帯によっては、前泊、後泊を認める。また、パックスの利用により日帰りより安くなる等、合理的な理由がある場合はこの限りではない。理事会に準ずる学会の会議（主査会議、編集委員会、表彰委員会）に適用する。ただし、できるだけ安価に済むように協力をお願いします。（承認）
4. 学会員が逝去された場合に関して
名誉会員・評議員・現職役員が逝去された場合、学会事務局から「日本液晶学会」で供花をし弔電を打つ。事務局に逝去の連絡があった時には、総務理事へその旨連絡をするようにし、予備費より支払をする。また、編集委員は追悼記事を用意する。（承認）
5. 法人化について
法人化検討 WG から弁護士との面談についての報告がなされた。
今後、法人化に伴う資産の扱い等について税理士と相談し、次回理事会において報告、審議することとなった。（継続）

財務委員会

1. 決算科目の件(承認)
討論会行事を一括科目処理したが、総会の折、前例と異なる旨の質問を受けた。
「講演会」を本部事業(科目)、フォーラム委員会へ委託とすることにより解決する。
2. 「シグマ出版」 著作権支払いについての引継ぎ(継続)
シグマ出版による著作権料の支払いが滞っている。
引き続き、事務局により「督促状」の発行を続ける。
[依頼](アドスリー様)
法人化相談料(弁護士)を 2010 年度決算にしていいただきたい。

研究委員会

1. フォーラム講演会の予算の使い方
フォーラムの開催形式が変わってきているので、予算の使い方をどうするか、フォーラムの中で予算を使いやすいようにする為、主査会議で諮り案を理事会へ挙げる形をとる。（継続）

報告事項

総務委員会

1. メール審議

- (1) 日本液晶学会パンフレットの作成（承認）
- (2) 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会講習会協賛（承認）
- (3) EDIS 2009 -Global Workshop on Organic Thin-Film 協賛（承認）

財務委員会

1. 次期理事への申し送り事項の確認

- (1) 口座移行
- (2) 今後の予定のすり合わせ

編集委員会

1. 会誌 10 月号の報告および会誌 1 月号・4 月号の予定の報告
2. 第 4 回編集委員会（2009/9/14, 討論会会場にて）の報告
次期（1 月からの）編集委員もオブザーバー参加した。

行事委員会

1. 液晶学会討論会・講演会について

- (1) 参加者について以下のとおり報告があった。
講演会参加者数は事前 109 (昨年 126) 名、当日 67 (昨年 49) 名の計 174 名、昨年度 175 名の約 0.5% 減。内訳は一般 72+30, 学生 37+35 (昨年は大学 30+10, 企業 48+36, 学生 48+3) 学生無料の効果大。
討論会の参加者数は事前 280 名、当日 141 名の計 421 名、(昨年度事前 312 名、当日 192 名の計 504 名) の約 17% 減。内訳は一般 160+100, 学生 120+41 (昨年は大学 110+27, 企業 75+105, 学生 127+60) 一般講演の発表件数は、口頭発表 109 件、ポスター発表 110 件の総数 219 件 (昨年は口頭発表 110 件、ポスター発表 138 件、総数 248 件) 昨年度と比較し、参加者数は討論会減、講演会は学生無料が効いて維持。
- (2) 虹彩賞の本年度受賞者と講演題目が報告された。
 - ・石井陽子：スメックチックバブルのガス透過メカニズム
 - ・吉岡 潤：フッ素鎖両親媒性液晶-棒状液晶混合系で新規に発見されたラメラネマチック相のナノ構造とダイナミクス
 - ・西見昭雄：液晶性超分子ブロック共重合体をナノテンプレートとした高分子構造構築
 - ・遠藤直樹：エレクトロスプレイ法を用いた配向材塗布によるプレチルト角制御
 - ・澤 芳樹：ハイブリッド配向を有する液晶エラストマーの作製と熱変形挙動
 - ・田頭健司：パターン配向液晶欠陥層を有する 1 次元フォトニック結晶によるレーザー発振波長制御
- (3) 会計について以下の報告があった。
 - ・講演会
収入 402,000 円、支出 348,166 円 で 53,834 円の黒字
 - ・討論会（懇親会、印刷版予稿集込）
収入 4,120,000 円、支出 2,872,935 円 で 1,247,065 円の黒字
(昨年は講演会、討論会合わせて収入 5,767,500 円、3,562,880 円で 2,204,620 円の黒字)
支出は昨年と大きな変化はなく、参加者減のため収入が減。
(2009. 11. 1 現在、まだ九大への備品送料などが確定されていないので最終確定ではない)
- (4) 来年度の実行委員会体制について提案があった。
- (5) 下記の来年度に向けた申し送り事項について説明がなされた。
 - ・来年度の参加登録費について
 - ・企業セッションに関して
 - ・登壇条件の見直し
 - ・社会人学生会員の扱い
 - ・予稿集の印刷版について
 - ・名誉会員について

会員委員会

1. 次回会員数の確定は2009.11末で行う予定なので、2010年第一回の理事会にて確定会員数の報告、及び、入退会者の承認審議を行う。
2. 会費未納率（2009年10月30日現在の最新データです）の報告。
3. FPD 出展報告（3日トータルで500人位立ち寄った）
4. WEB会員名簿の整備について状況報告。液晶討論会（講演会）のWeb事前及び当日登録でのWeb名簿掲載についての許諾回答状況及び件数をまとめて報告した。

研究委員会

1. 講演会

テーマ：フレキシブルディスプレイの将来、日時：2009年9月12日（土）10：30～17：30、場所：東京農工大学小金井キャンパス（東京）講義棟 L0026 講義室で開催した。参加者数は、予想を超え160名を数えた。当日の学生参加費を無料にした効果が表れた。来年の講演会でも継続して無料としたい。

2. 第2回フォーラム主査会議

日時：2009年9月13日（日）12時10分～13時、場所：東京農工大12号館 L1214講義室にて開催した。出席者は、山口、長谷川、宍戸、西山、古江、花崎、長屋、内藤。

議題

(1)物理－化学－フォトンクス－ソフトマター合同講演会の開催について議論し、テーマを「アゾベンゼン光異性化を用いた液晶科学への誘い（仮）」とし、開催場所は立命館大学草津キャンパス、開催日時は11月第3週、25日（水）～26日（金）のうちのいずれか1日とし、会場および講師、主査の都合の良い日を検討することとした。また、講演講師、交渉担当者を選出した。さらに主査会議の同日開催を予定した。

(2)全フォーラム合同講演会開催について議論し、基礎的勉強ができるような講座を計画することとした。

(3)次年度のフォーラム委員、主査の選出に関して相談した。

3. フォーラム活動の予定

(1)「液晶化学・材料」「液晶物理・物性」「液晶フォトンクス・光デバイス」「ソフトマター」研究フォーラム 合同講演会は、下記のように開催する予定である。

「アゾベンゼン光異性化を用いた液晶科学への誘い」

=====

●日時：11月25日（水曜日）11：20～16：30

●場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス内 エポック立命21

●参加費：正会員 2000円 非会員 4000円 学生 無料

●参加募集人数：60名

●共催：立命館大学グローバルイノベーション研究機構（R-GIRO）

●趣旨 光照射により分子構造が可逆的に変化するフォトクロミック化合物の一つであるアゾベンゼンは、その異方的分子形状により液晶と高い親和性を示します。特に近年では、光と協同効果の組み合わせにより、新材料の開発から従来にない応用の提案まで研究分野の枠を超えた大きな広がりを見せています。そこで今回、“アゾベンゼン光異性化を用いた液晶科学への誘い”と題した講演会を4フォーラム合同で企画しました。講師の先生方より、多彩な分野からのご講演を頂くとともに、紅葉の美しい京都の近くにて自由闊達な討論を行いたいと思います。皆様の奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

●講師（敬称略）及び講演テーマ

堤 治（立命館大学）「アゾベンゼン液晶を利用した無機ナノ材料の構造制御」

永野 修作（名古屋大学）「アゾベンゼン液晶相を利用した高分子ナノ構造体の光配向（仮題）」

池田 富樹（東京工業大学）（タイトル未定）

栗原 清二（熊本大学）「アゾベンゼン液晶を含む周期性構造体の構築と表示材料

への応用」

宇佐美 清章（大阪産業大学）「アゾベンゼンを主鎖に含むポリイミドの光配向膜による液晶の配向制御（仮題）」

佐光 貞樹（物質・材料研究機構）「アゾベンゼンによる液晶秩序の制御と分子マニピュレーションへの応用（仮題）」

●懇親会：立命館大学びわこ・くさつキャンパス内（17:00～19:00）

参加費（予定）：学生以外 4000 円、学生 2000 円

(2) 全フォーラム合同液晶基礎講座～計測編～は、下記のように計画された。

日時：平成21 年12 月4 日(金) 1:30 - 5:00

場所：東陽テクニカセミナー室（東京八重洲）

参加費： 検討中（案 正会員：2000 円，非会員：5000 円，学生会員：無料）

液晶に関わる材料・デバイスの新機能発現および高性能化において、物性計測の重要性はいうまでもありません。なかでも、基礎および原理の理解は、新たな計測法を活用するきっかけになるだけでなく、研究に異なる視座を与える可能性も含んでいます。このたび、昨年好評を博した液晶光学基礎講座をさらに発展させ、全フォーラム合同として液晶基礎講座～分析編～を企画いたしました。最近液晶を始めた学生や社会人から、基礎から勉強したいベテランまで幅広く多数のご参加をお待ちしております。

講演プログラム：

1:30-1:35 開会挨拶

1:35-2:35 LED バックライトの測定(仮) 大塚電子(株) 大久保和明

2:45-3:45 交渉中

3:55-4:55 微小電流計測(仮) 東陽テクニカ 井上 勝(交渉中)

4:55-5:00 閉会挨拶

5:30- 懇親会（希望者実費）

4. 第3回フォーラム主査会議は、下記のように開催することを決定した。

日時：11月25日（水曜日）12:30～13:30 昼食時，および 講演会終了時 16:30 から適宜

場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス内 会議室

5. 次年度への申し送り事項

討論会での企業セッションのあり方を議論する必要がある。これまでは、担当者を決めずに、部材メーカーなどと接点のある理事がプログラムを作成し、講師の交渉も行っていった。理事の構成に大きく依存するため、担当者を決める必要があるのではないか。